

Key word 3

勝ち組 vs. 負け組

格差社会の浸透にともない、高所得者と低所得者の差が広がっている。すでにアメリカで起きているこの二極化をレポートした書籍「ルボ 貧困大国アメリカ」の発行部数は19万部を記録。担当編集者は、「アメリカのことで、日本の未来を暗示するような内容。『人ごとではない』と読者が感じているのでは」と話す。特に若者からの反響が高いという。勝ち組となるか負け組となるかは、いま、人々の切実な問題となりつつあるようだ。



「ルボ 貧困大国アメリカ」
堤夫 著
岩波書店



「プレジデント」
特集「金持ち家族、貧乏家族」
プレジデント社



「年収崩壊」
森永卓郎 著
角川SSコミュニケーションズ

Key word 4

勝間和代

書店のビジネス書売り場などに「勝間和代」をテーマにしたコーナーができるほど、話題となっている経済評論家の勝間和代さん。昨年11月に発売された「お金は銀行に預けるな」の発行部数は37万部に達している。「金融リテラシーの教科書的な内容でありながら、生活者の目線でお金の使い方を語っているところが受け入れられたのでは」と担当編集者。新聞や雑誌などにおける勝間さんのメディア露出も、売上に大きく貢献している。



「勝間和代のビジネス書を新編 7つのフレームワーク」
勝間和代 著
ディスカヴァー・トゥエンティワン



「お金は銀行に預けるな」
勝間和代 著
光文社



「効果10倍アップする 新・知的生産術」
勝間和代 著
ダイヤモンド社

Key word 5

蟹工船

「蟹工船」に描かれているのは、低賃金で酷使される労働者の姿。今年2月に朝日新聞で紹介され、「ワーキングプア」という言葉と一緒にBOOK EXPRESS ティラ上野店で店頭展開されてから人気に火がついた。新潮社の「蟹工船・党生活者」担当者によると、毎年5000部どまりだった増刷部数は、今年の増刷部数だけで既に37万部を超えたという。「最近では『プームだから読んでみよう』と手に取っている方が多いように思います」と話す。



「蟹工船・党生活者」
小林多喜二 著
新潮社



「私たちがはじめて読んだ蟹工船」
読行社



「蟹工船」
小林多喜二 原作
バリエティ・アートワークス企画
イースト・プレス

Key word 6

グーグル

伸び続けるインターネット広告に、既存メディアの広告が押される中、グーグルの収益構造に関心が集まっている。「グーグルに勝つ広告モデル」の担当編集者は「グーグルのビジネスモデルや、外資系ならではの職場環境が理想的だと思う人が増えています。今後もグーグルから目が離せません」と話す。発売早々から売れは好調で、発売したのち1週間で2万部を増刷した。



「グーグルが日本を破壊する」
竹内一正 著
PHP研究所



「グーグルに勝つ広告モデル」
岡本一郎 著
光文社



「アップルとグーグル」
小川流、村倉行 著
インプレスR&D

ベストセラーから読み解く

旬な言葉 & テーマ20

売れ筋の書籍や雑誌にはどのような時代の気分が反映されているのだろうか。日販やトーハンなどのランキングも参考にしながら、時代をあらわす20のキーワードを探ってみた。

Key word 1

うつ

うつ病の患者はここ数年増え続け「患者数100万人時代」と言われている。社会問題化しつつあるこの「うつ」は、人々の将来に対する精神的・経済的不安に端を発している。そんな中、刊行された『鬱の力』は、発売1カ月で発行部数8万部を記録した。「ネガティブなイメージのある「うつ」を原動力に変える内容だったことが、多くの人の心の救いになったのではないだろうか」と担当編集者は話す。



「鬱の力」
五木寛之、香山リカ 著
幻冬舎



「生きていくのがつらい」
鎌倉祥彦 著
平凡社



「うつ病の患者はここ数年増え続け」
読者 著
平凡社

Key word 2

エコ&ビジネス

今年7月には北海道洞爺湖サミットが開催され、環境に対する関心が企業も個人も高まりつつある。そのような中、環境とビジネスをテーマにした書籍が目立って始めている。発行部数1万2000部の「ロハスビジネス」もそんな一冊だ。「一度破壊されてしまうと、なかなか元には戻らない環境などの不可逆的なものは、現代の大きな解決すべきテーマ。だからこそ、そこにビジネスチャンスがあるんです」と担当編集者。



「ロハスビジネス」
大和田敏子、水津陽子 著
朝日新聞社



「輸出権取引ビジネスの実践」
輸出権取引ビジネス研究会 著
東洋経済新報社



「新・地球環境ビジネス」
エコビジネスネットワーク 編
集字社